

“令和六年 敬念寺報恩講法要厳修”
 ～法要後のお齋も復活しました!～



お勤めの声が本堂に満つる(6.11.10)



発行所
 岡谷市郷田一丁目6番3号
 TEL(0266)22-2524
 金松山 敬念寺
 発行
 敬念寺門信徒会
 編集
 会報組織委員会
 朝7時はみ仏さまや
 彼(か)の人との
 出会(であ)いの時間

小僧の目

日常の生活の中で頭を下げる場面が多いと、物事が上手に運んでいかなかったり、失敗の繰返しのような印象を持ちます。相手に迷惑をかけるような失敗や失礼をしてしまった時には、謝罪で頭を下げるのは世の中の礼儀でもあります。▼世界の中で日本人は特に頭を下げて意思表示をするようです。この行為は謝罪という意味だけでなく、感謝の思いや敬意に現れ挨拶の時に何気なくしています。▼寺の仏事作法の基本的な所作の中にも、手を合わせ頭を下げるという合掌・礼拝があります。▼「頭を下げる」と「頭が下がる」所作は同じですがその意味は大きく違ってきます。▼法語に「頭を下げながら人を見下している 自是非心がぬけぬから」という言葉があります。自是非とは自分が是であり、他人が非であり、自分がよくて他人が悪いということ。頭を下げるということは、自分の都合、自分中心の行為「我執」とも言われます。▼一方で頭が下がるということは、私の都合ではなく、すばらしいものに出遇って感動したときや、私を生かさせてくださるものに感謝した時「おかげさま」と頭が下がり、また私の恥ずかしさ、愚かさに気づいた時、「おはすかしい」と頭が下がります。▼仏事作法での礼拝は頭を下げるではなく、頭が下がると言えます。所作としては同じ姿でも意味合いは大きく違ってきます。▼私も常に頭が下がる思いで礼拝しているかと思えば、そうではないでしょう。作法として所作していることばかりです。▼「下げる」ではなく、「下がる」礼拝を心掛けたいものです。▼合掌とは、仏さまに出遇っている姿であり、礼拝は仏さまのはたらきに気づき、「おかげさま」「おはすかしい」「ありがとう」の思いをもって所作しているのです。▼作法は形から入り、その心に近づいていく行為です。まずは、合掌礼拝の習慣を心掛けたいものです。

釋 宏真

ご寺院行事

- 4月26日(土) 門信徒会年次総会 後 6:00
- 8月 3日(日) 新盆合同法要 前10:00
- 8月16日(土) 孟蘭盆法要 前10:00
- 9月23日(火) 秋の彼岸法要 前10:00

ご定例法話会

- 4月20日(日) 講師 麻田秀潤さん(新潟県)
- 5月20日(火) 講師 柏倉学法さん(千葉県)
- 6月20日(金) 講師 結城道哉さん(三重県)
- 7月20日(日) 講師 青木哲隆さん(富山県)

いずれも毎月20日 夜7:00からです。

令和六年度 各委員会活動報告

常任委員会

会長 千原 博幸

当年度は、感染症対策の影響で五年間中止を余儀無くされていた親睦旅行を本山参拝旅行として再開を図り、また懸案であった報恩講におけるお斎の提供を復活させることが出来、コロナ禍で停滞気味となっていた門信徒会の事業活動が回復基調となりました。

しかし寺院法要・門信徒会行事における参拝人員の減少傾向が続いており、加えて地区世話人の欠員増加への対策、次世代人材の発掘・育成等、寺院・門信徒会の重要課題への取り組みの強化が課題として特記されます。

主な活動としては、①寺院で開催される各種の法要・行事に奉仕・参加、②寺院の営繕・保守事業の推進・支援、③寺院・門信徒会の重要課題である「次世代人材発掘&育成」「地区世話人体制課題(欠員補充他)」の検討・推進を行い、寺院活動に協力しました。

新年度では、少子高齢化の進む社会変化の中、門信徒会事業の再構築に向けた見直しを進めると共に、役

員任期最終年度として中長期重要課題に対する検討と方向付けを行い、ポストコロナ時代に適応した寺院活動に向け住職と一体となった活動を推進して参ります。

教化委員会

委員長 新井 滋平

ご住職全行程同行で「親睦旅行」を実施。参加者十八名。本山お朝事に参拝、終了後八名が帰敬式(おかみそり)を受式され、法名をいただきました。他に、親鸞聖人誕生地の日野誕生院、幼少期を過ごされた法界寺、中国様式の萬福寺(黄檗宗)、NHK大河ドラマの舞台となつた宇治平等院・石山寺を参拝しました。

「夏季連続参拝」は、十四名(昨年二十五名)が参加されました。「報恩講」の法話は、仏教讃歌を交えて分かりやすく、五年ぶりの「お斎(敬念寺汁付き)」も大変好評でした。

協賛行事の「作品展」も参道を埋め尽くした丹精込められた見事な菊花を中心に多くの皆様に作品を出展していただきました。残念ながら「ファミリィ参拝」は中止いたしました。

宗門活動への協力としては、長野別院の「親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年慶讃法要」・『長野別院創立百周年記念法要』がご門主をお迎えし挙行されましたので、関連行事を含め参加しました。

近時、寺院や門信徒会の諸行事・活動に参加される方が、減少してきております。一人でも多くの皆さんが集い、親しく語り合い、自他ともに心豊かに生きることの大切さを実感できる機会を少しでも多く設けるよう模索してまいります。皆さんのアイデアをぜひお寄せください。

財務委員会―感謝の一言―

委員長 西山 周治

本年度も門信徒会費・護寺協力金の納入にご協力を賜り厚く御礼申し上げます。お陰様で一年間の委員会活動を終了することが出来ました。これから、一年間の経過を整理し決算書をまとめ、次年度の予算案を作成いたします。

今年度は、門信徒会費収入が予算を下回り、一般会計から護寺基本金への繰入れが大幅に減少することになりました。護寺協力金についても、ご協力いただける門徒様が減少しております。

護寺協力金につき、前任職が敬念寺だより第百二十一号の「小僧の目」に記されております。抜粋します。

「護寺協力金は、今後おきる大きな事業や法要等がありましても即座でできる、財務改善策であります。差し迫って見える事実だけにとらわれ、将来を見通せないようでは子孫に禍根を残すこととなります。その場になってあわてることなく、行き先を明確にしておく必要があります。

す。「我に任せよ、我が名を称えよ、必ず浄土に生まれさせよう」との本願を信じ、安穩なる日暮らしをしたいものです。」

先を見据え、子孫に禍根を残すことの無いよう、私達の心の安穩の場所に思いを寄せ、門信徒会の活動を通してこのお寺をしっかり支えてまいりたいと思っております。

婦人部

部長 小原 久代

前任の前田会長の後を引き継ぎ、皆様のご協力をいただき一年間活動することが出来ました。

コロナ禍を経てお寺の活動が戻りつつあり、貢献できるよう婦人部の活動をしたいと思っております。

報恩講の「お斎」復活で婦人部の力を結集することができ、コールガングダーの活動も継続し、報恩講で発表することが出来ました。

また、有賀尚子先生によるピアノ演奏を楽しむ会を持ちました。

会報組織委員会

委員長 白田 正夫

今年度も三回「敬念寺だより」を発行させていただきました。また、発行の都度、PDFにしてホームページに掲載しています。

お寺の活動が元に戻りつつあり、適時な情報を掲載してまいります。

紙面を通じて、「み教え」の広がりや深まりに役立てるように工夫して編集してまいります。

前住職の一周忌法要厳修

令和五年十月十日ご逝去された、第三世御住職・釋玄真殿の一周忌法要が昨年十一月十日本堂において厳修されました。当日は報恩講法要・お齋がありましたので、その終了後に多くの門信徒の皆様が参列し法要が営まれました。

法要に際して、内陣には本山・西本願寺からの供花が添えられ、改めて前住職のご功績が偲ばれました。



本山・西本願寺からの「供花」



一周忌法要のようす(6.11.10)



五年ぶりのお齋のようす(6.11.10)

令和六年報恩講法要のようす



コールガンダーの仏教讃歌発表(6.11.10)

令和七年度 門信徒会年次総会開催の御案内

- 一日時 四月二十六日(土) 午後六時
- 一 場 所 敬念寺「本堂」
- 一 議 題 令和六年度事業報告・決算報告
令和七年度事業・予算案承認の件
その他

★年次総会終了後の懇親会は、今年も諸般の情勢から判断して開催を見合わせますのでよろしくお願いたします。代議員となるお世話人の皆様には総会開催通知を、別途「往復はがき」でお知らせします。(出欠の返信をお願いします。)